



ADULT ONLY

S

Servant



やっと発行することが出来ました。この本
裏表紙に2004スプリングって書いてありますが
見なかったことにして下さいな。

去年に表紙&裏表紙と17ページ分のネームをきって
下描きに6ページでかつきたわけです。

2005年1月に出せればいいや、同年2月に出せればいいや、
同年3月に出せれば…同年4月に出せるかな、
同年5月…いや6月同人誌専門店に先行で！！
と先送りになりまして、
今回8月コミケ68にやっと発行となるわけです。お待たせしました。
ただ、ローゼン本は去年の冬コミ67に今回の本の代替りの本
「まきますか！」コピ一本を出しています。
また、その後に追加ページ7割描き直し、
オフセ「じゃんくろ」+オフセオリ本「ざんぞう」(サークル専用)
+「突発コピ一本 紅の本」と4冊、いや合計3冊出しています！！



愚行

※おろかなおこない。
「一を重ねる」

ここは桜田家の2階にあるジュンの部屋
今、その室内にはジュンの姿はなかった。

彼の指定席でもある愛用のパソコンの前には真紅が居る。

席に座っていると言うよりも立っていると云った方がいだろう

マウスをカチカチとクリックしながらパソコンを操作している

ちなみに彼女の手には、かなり大きなマウスである

真紅は、画面を黙々と観ている。そして大量の映像を見終わり言った。

真紅「ふうん、こんな人達もいるのね」

その時、部屋に入ってきた人物が、部屋中に響く大きな声で叫んだ

ジュン「な……何やってるんだよ真紅！」

真紅「あらジュン……なに？」

ジュンは慌てて真紅を椅子から降ろした

ジュン「いいか真紅、今度僕のパソコンに触ったら許さないからな」

真紅「そう……まあいいわ」

真紅は悪ぶれた様子もなく素っ気なく、言い放った。



ジュンは椅子に座りパソコンを触り始めた。
真紅「で？ジュンはかけるの？」

ジュン「はあ？」

真紅「ファイギ射」

ジュン「わあああああああああああああ！」

(なんで：なんで：なんで：ジュンは心の中でつぶやく)

真紅「画像がたくさん在ったわよ？コレクションかしら」

ジュン「ちがーう！」

真紅「まさか？私に射撃とかしてないでしようね」

ジュン「するかー！ー！ー！ー！っ」

真紅「じゃ、どうしてあんなに在るのかしら？」

ジュン「あっ……あれはなんて言うか……お前が、動けなくなっ

た時にだな……

色々だな調べてだな……

真紅「そうなの？一応……信じるわ……」

ジュン「一応って……僕は別に……」

つかつかと真紅はジュンの部屋から出て行こうとしていた

ジュン「まずい真紅のヤツ全く信じていないぞ、誤解されたま

まじや……

そうだ……見ているよ」

近くにあった探偵くんくんの人形をつかむジュン

釣竿にくんくんを付けて部屋のドアから廊下に釣竿を出したと

たんに言い放った。

はま？



カチャツ



ジュンくん「やあ真紅、また会えたね」

後ろから声をかけられ振り向く真紅、そこには憧れのくんくんが居た

真紅「くんくん！」

真紅は顔を赤らめながら少しうつむいた。真紅の表情や態度からジュンは、

いける！と判断した。前に使った手だったが、効果は実証済みだ。

ジュンくん「実は、ジュン君のことでキミに話したいことがあるんだ」

真紅「ジュンの事で？」

ジュンくん「聡明なキミなら解るだろうジュン君は、キミのことを本当に心配して

色々調べたんだよ。ジュン君があんな画像を集める訳がないだろう

本当はもう解っているんじゃないのかい？」

そう言ったものの、真紅からは答えが、返ってこないでドアの隙間から廊下の方を覗く

突然ナメ後ろから声がする。慌ててその方向を見た。

真紅「どの辺りを解って欲しいのかしら・・・ジュン君？」

ジュンくん「し・・・真紅」

真紅「残念ね、ジュン君、その手はもう使えないのだわ」

その場で呆然とするジュン

真紅「危ない危ない」

真紅は、鼻で軽く笑いながらその場から立ち去って行った。

ジュンくん「もう・・・もうこの手しか・・・残って・・・ないのか？」



びびりびびりして

ドギシ

カッ

どうだ
真紅

これなら
お前だって…

ただの変態
じゃないかあ

なんで僕は着る
前に気づかないんだ…

な…何を
してるんだ

早く脱ごう
こんなカッコ…

くんくん？

そ…その声は
真紅…

くんくんが
何で
こんな所に
いるの？

くんくん変身セット

もちろん通販で購入

明日クーリングオフ最終日

う…嘘だろ
真紅

本物って
こんなに
大きいのね

ねえここに来た
用事ってなにかしら

あつ…えーと
ジュン君に頼まれて

し…しまった…
そんな訳無いだろう

そう…残念ね…私に会いに来て
くれたんだと思ってたのだから

私の下僕に
何の用かしら

だ…何で
話が進むんだよ
このカッコで解るだろう

どうしたのくんくん

え…となんだ…キミは誤解をしているよ
彼は…キミの事を本当に心配して
色々調べていたんじゃないかな？
たまたまあんな画像があったかも
しれないけど
本当は分かっているんだろう

そうね…
一応分かっているつもりよ

だって私の
下僕ですもの

じゃあ
信じてあげるんだね

そうねどうしようかしら
私のお願いを聞いて
くれたら信じてもいいのだから

お…お願いって…

なんだお願いって
こんなことか…?

これで疑いも晴れて
良かった…良かった
?…?…?!!

だあー

嘘だ…こんなの!!
バレバレのカッコで…
信じろって方が
おかしいじゃないか

まさか…知ってて…
僕をからかっているんじゃ
翠星石ならありえるけど

ほんわか
ほんわか

真紅が…でもなんで
騙された振りなんか…
は…は…ん分かったぞ

引くに
引けないんだな

!

あ…あのっ…
くんくん…

どうだ!!
真紅…
嫌がれよ

いいわよ
くんくんなら

えっ

な…なに
言ってるんだ

でもちょっと
待って…

服が…シワに
なっちゃうから

そんなに見ないで
恥ずかしいわ

ねえ…くんくん
私なんかで…いいの？

う…うん…
か…？

なにやってるんだよ真紅…
いつもみたいにはぐらかせよ
このまま進んだら…
もう後戻りって言うか…

キゅん

あれ…
引くに引けないのは
僕の方じゃないのか
こ…このままじゃ

もう止められ
ないからな…

やわらかい…

嫌じゃ
ないのかよ

嫌がれよ

嫌がれよ…

なんでだよ

ちゅっ
ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

ちゅっ

んっ



本物みたいだ

あつ

精巧に作って
いるんだ…

挿入
りたい



な…
なんて

す…すごいネット
見たのと同じだ…



抑え
きれないよ



真紅に
挿入
りたい



えっ…真紅
ちよつと…

大丈夫だから
じっ…としてて…



い…いいの…いいの…
このまま真紅…と…

真紅が…真紅が…
うっ…はあああ

れろ…

ビクッ

舌が…
真紅の舌が

んっ…んっ…
スゴイ気持ちいい
…んっ…はっ…あっ

ちゅろ…

わっ
わっ

チュ
チュ

ちゅろ
ちゅろ

そ…そんなに
されたら…

真紅!!

あっ…んっ…
もう…っ…

いきなり射精すなんて
射精す時は言ってほしいわ

濃いのね
結構…

っほ

ビクッ

ビクッ



冷静になって考えれば理解
できるのだから下僕としては
失格ねジュン!!

もうー!

チクシヨウ

チクシヨウ

チクシヨウ

ブルル

真紅!!

かっ
しっ

ちよつと痛いじゃない
離さないジュン

ぎゅっ

うるさい

あっ

かばっ

ジュン…
まさか…
ダメッ

せわっ

僕…僕を
バカにするからだ

ダメって言うてるでしょう
そんなの無理よ

ニャー

ニャー

痛い…痛いわ
ジュン!!

大丈夫…大丈夫…
ちやんと挿入して
るから…

それにしても
こんなに気持ち
いいなんて

オナニー
なんかと比べ
ものにならないよ

こんな奥まで
挿入出来るなんて

聞こえないの
ジュン!!

オマンコがぎゅ
ぎゅう締め付け
くるよ真紅!

いやーっ抜いてー
抜きなさい
私の言うことが
聞けないの…
ジュン!!

痛い…
痛い!!

うるはら…
抜くもんか…
絶対抜くもんか…

ジュン!!

真紅が悪いんだ
真紅が、真紅が

真紅の
スゴイよ…
スゴすぎるよ…

ずちゅ
ずちゅ

ずちゅ

ヒイあああ

裂けちやう
裂けちやう



とめて…
止めなさい

お願いよ
動かさないで…

ダメッ…

壊れちやう

本当に

壊れちやう

ちゅぶ

ちゅぶ

真紅…

真紅…

真紅…



無理だよ
真紅…もう
止められないよ

ズチュ
ズチュ





ビュクッ

いやあああ
ああ

ビュイ

バカッ…ダメッて
言ったのに…



ビュッ

ビュ

ビュクッ



ぬおー

びゅっ

びゅっ

びゅっ



本当に壊れたら
どうするのよ…



ゴメン…

それで少しは
冷静になれたかしら



だって…
真紅が…

かー



もしからかって
いるのなら服を
脱ぐ前に
あしらって
いるのだわ

えっ…そうか
そうだよな…



でも…それじゃ
なんで…?

うん
うん



あ…あの
真紅…

もう!!
そこまで説明
させる気



じゃあ真紅
僕のコト…
す…す好き
なのかな…

はあああああ

きや

ほー



当然!!
くんくん
プレイ♥
だからよ!!

ガッ

グッ



私の本当の
気持ちには
いつ気付いて
くれるのだわ
……ふっふっ

くす、

END

ねえじゅん
誘ってきたのはあなたでしょ





「Servant」

編集後記

毎回毎回、拙い本を出しておりますが、前文でも述べたのですが、このローゼン本はグオリティの高いもので出したかったのですが、いつのと同じ感じの本になりました。

毎回、あやまっていますが、きっとこれが僕の限界なのです。

さらに今回は作業大詰めというところで、メインマシン（自作）がお亡くなりになってしまいました。合掌！（涙）

原因が全く不明で、直らなくてどうしようもなかったのですが、仕事用の2号機にハードディスクを移して事なきをえました。実はかなりへこんでいます。（涙）

このハブニングで、今回も落してしまうかと思いましたが、何とか形にすることが出来ました。

この本を手にとっていただいているみなさん、ありがとうございます。

今回遅延した大きな原因は、アニメ三昧、パンヤ三昧、そして隣人のリンダ三昧（うう）です。

このリンダ（キチ○イババ）について詳しく知りたい方は、僕のHPまで来て下さい。

P企画情報サイト

http://members.ld.infoseek.co.jp/p_kikaku/

お問い合わせはこちらまで

p-kikaku@excite.co.jp

奥付

発行サークル P企画

発行者代理 おだ あきら

企画／編集／協力補佐 「じょん3世」「MAOの」

発行日 2005年8月14日

印刷所 ねこのしっぽ

口企画
おだあきら
Winter
2004

「なにがしら？」

「そうなの、貴方が

今度の下僕ね……」

